View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

高齢社会における美容室のあり方--高齢者のグループインタビューによる質的研究から（[日本社会事業大学社会福祉学会]第49回社会福祉研究大会報告）--（各分科会からの報告）

著者	佐伯 久美子，曽 婉君，武藤 祐子
雑誌名	社会事業研究
号	50
ページ	68-72
発行年	2011-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1137/00000152/

Creative Commons : 表示 - 非営利 - 改変禁止
http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/3.0/deed.ja

高　齢　者　A

高齢社会における美容室のあり方
－高齢者のグループインタビューによる質的研究から－

学校法人山野学苑　山野美容芸術短期大学
佐　伯　久美子
曽　　婉　君
武　藤　祐　子
山野美容芸術短期大学
院前期 2000 年卒　松　下　能　万

１．はじめに

高齢化が急速に進行している日本では、高齢者の介護予防を進める視点として健康づくりと積極的な地域社会への参加が重要なテーマになっている[1)]。内閣府（2010）[2)] によると、65歳以上の高齢者において、社会参加をしている人は「おしゃれをしたい」と回答する割合が高く、調査全体では60.2％（男性47.9％、女性70.3％）が「おしゃれをしたい」と回答している。このことから、高齢者のおしゃれ行為を支えることは、高齢者の社会参加の充実につながると考えることができる。しかし高齢者が髪のおしゃれ行為として美容室を利用しようとした際、美容室が高齢者のニーズを満たし、利用しやすい環境に整備されているかについての研究は少ない。そこで本研究は、高齢者の社会参加に寄与することを目的とし、女性高齢者に対するグループインタビューを行いKJ法で質的に分析した。そこから「高齢社会における美容室のあり方」についての仮説構築を図ろうとした。

２．研究方法

１）高齢者の事前ヒアリングの実施

平成21年６月、Ｙ市老人クラブ連合会の５地区の女性高齢者５名を対象に事前ヒアリングを実施し、次のインタビュー項目を作成した。①　現在の美容への関心。②　美容室への関心や美容行為の変化。（過去と現在の比較）③　最近の美容室の利用状況。④　最近の美容室の印象やサービスへの不満・要望。

２）高齢者のグループインタビューの実施

平成21年８月、同連合会５地区の女性高齢者で各地区から４～5名（計21名）を対象に、半構造によるグループインタビューを各1回ずつ、約1時間半で計５回実施した。（表１）対象の高齢者の年齢は、65歳以上100歳未満とした。２名のインタビュアーで実施し、その基地語録をＫＪ法ＡＢ型を用いて分析し、考察した。

（表１）　高齢者のグループインタビューの概要

対象の女性	高齢者	実施者	実施日	実施時間
A支部	4名	2名	8月５日（水）	13:00 ～ 14:30
B支部	4名	2名	8月20日（木）	10:00 ～ 11:30
C支部	4名	2名	8月11日（火）	9:00 ～ 10:30
D支部	4名	2名	8月12日（水）	10:00 ～ 11:30
E支部	5名	2名	8月20日（木）	14:00 ～ 15:30

３．研究結果（図１）

KJ法により分析した結果、３の第１カテゴリー『おしゃれの関心』『美容室の利用』『おしゃれの実行状況』が抽出できた。その構成要素となる第２カテゴリーは５つ、第３カテゴリーは20抽出された。また、３の第１カテゴリーの構造配置については､『美容室の利用』と『おしゃれの実行状況』の一部が重なり合う形になった。

１）第１カテゴリー『おしゃれへの関心』

①　第２カテゴリー「おしゃれの動機」

第２カテゴリー「おしゃれの動機」は、高齢者のおしゃれと社会参加の関連を裏付ける内容と

なった。

「おしゃれをする理由」からは、人に会うときは綺麗にするという意識が挙げられた。また、家族やデイサービスなど、周囲の人の影響を受けている事例が多くあった。

「おしゃれをしない理由」からは、趣味活動や人付き合いに積極的で、おしゃれに興味がない方と、人付き合いに消極的で、おしゃれに興味がない方がいることが分かった。後者の方からは、本当は綺麗にしたいのにできないでいるという問題意識が語られ、おしゃれと外出の機会の両方が減少する悪循環が語られた。また、若い時から自分の外観に自信がないために、おしゃれと外出が少ないと言う方もいた。

② 第２カテゴリー「美容師に聞きたいこと」

第２カテゴリー「美容師に聞きたいこと」は、「美容で気なる点」であり、高齢者の潜在的な美容ニーズが分かる内容となった。高齢者が加齢による全身の変化について、それを積極的に美しくカバーしたいと望むのに対し、その知識がないという現状があった。これについては、熱心に高齢者同士で情報交換する様子が見られた。

２）第１カテゴリー『美容室の利用』

① 第２カテゴリー美容室の選択

第２カテゴリー「美容室の選択」は、普段利用している美容室を高齢者が選択した理由にあたる。「場所」「時間」「店内の環境」からは、高齢者ができるだけ負担を少なくしたいと望んでいることが分かった。また「人」「個人店」「長年の利用」からは、自分のヘアスタイルを変えたくなく、美容師や馴染みの利用客との関係を保ちたいという意識から、長年同じ美容室を利用している方が多く、20 ～ 50年も通われる方が珍しくないという現状が見られた。

② 第２カテゴリー「美容室で得た印象」

第２カテゴリー「美容室で得た印象」の内容は、「満足、好印象」「不満、悪印象」が挙げられた。

「満足、好印象」では、美容室が人と交流を図る良い機会になっていること、マッサージやシャンプーの施術が心地良いこと、また体調が悪い時に楽にシャンプーを受けられることが挙げられた。「不満、悪印象」では、美容室が身体的負担を感じる場になっていること、若い美容師に対する技術と向上心や、サービス精神の不足を感じる場になっていることが挙げられた。

③ 第２カテゴリー「髪型」

第２カテゴリー「髪型」については重複するため、後述する。

３）第１カテゴリー『おしゃれの実行状況』

第１カテゴリー『おしゃれの実行状況』は、高齢者の髪、顔、装いといった、トータル美容の内容となった。「髪型」については、自分らしく、スタイリングしやすい髪型を保つために頻回に美容室で施術を受ける方と、自宅でカットできるため、カラー剤の薬液に対する不安があるため、カラーをすると伸びた部分が気になるためなどの理由から、美容室の施術を受けない方がいることが分かった。「化粧」については、知識不足と化粧の機会の減少が挙がり、「服装」については、今の高齢者が昔の高齢者に比べておしゃれになっているという現状が挙がった。

４．考察

本研究の結果では、おしゃれをする高齢者は社会参加に積極的であるのに対し、おしゃれをしない高齢者については、趣味などにより積極的な活動をしているため問題を感じていない方と、本当はおしゃれをしたいのに理由があってできない方がいることが分かった。本研究の高齢者の視点を踏まえ、「高齢社会における美容室のあり方」について、美容室に以下の環境を整えることが必要であるという仮説が立った。

１） 美容室を中心とした人間関係

① 美容師が高齢者を個別に良く理解し、馴染み

（表２）「高齢社会における美容室のあり方」

１）　美容室を中心とした人間関係
①　美容師が高齢者を個別に良く理解し、馴染みの関係を築いている。
②　馴染みの利用客が多くいて、利用客同士自然と交流をもっている。
③　美容師が高齢者の身近な人と、高齢者を利用につなげる関係を築いている。
２）　身体的負担が少なくて済む物理的環境
①　美容室が高齢者の自宅からすぐ近くにある、または送迎サービスが利用できる。
②　美容設備がバリアフリーになっている。
３）　高齢者に対応した美容サービス
①　高齢者が求めるヘアスタイルを提供している。
②　マッサージとシャンプーの心地良さを提供している。
③　高齢者に対応したトータル美容の知識と技術を提供している。

の関係を築いている。

本研究では、美容師との馴染みの関係ができている方が多くいた。高齢者は美容師との会話を楽しみに感じており、自分らしいヘアスタイルを維持するため美容師の技術を望み、同じ美容師に長年担当してもらうことを望む傾向があることが分かった。

高齢者が望ましいと感じる美容師像の一つは、自ら学ぶ姿勢がある人であった。美容師が個々の高齢者からニーズを学ぶという姿勢を持つことで、若い美容師と高齢者にある世代の壁が低くなり、信頼関係を築くことができるのではないかと考えられる。

②　馴染みの利用客が多くいて、利用客同士自然と交流をもっている。

本研究では、長年同じ美容室に通う高齢者から、利用客同士の交流の楽しさが語られた。高齢者にとって美容室は、美容の提供を受けられるだけでなく、定期的に知り合いと会うことを楽しむ社交の場であることが分かった。美容室側がより多くの利用客と馴染みの関係を築くことで、利用客同士の交流の場を提供できると考えられる。

③　美容師が高齢者の身近な人と、高齢者を利用につなげる関係を築いている。

本研究では、高齢者がおしゃれを実行するためには、高齢者の身近な方の影響が大きいことが分かった。このことから、高齢者が美容室を利用すしやすくするためには、美容室と一般の利用客、あるいは福祉関係者との関係を築くことが重要であると考えられる。井出添（2009）[6] は、デイサービスと美容室を隣接することで効果を挙げた事例を報告している。

２）身体的負担が少なくて済む物理的環境

①　美容室が高齢者の自宅からすぐ近くにある、または送迎サービスが利用できる。

本研究のY市の高齢化率は平成20年4月現在約19％であるが、美容室が駅周辺に偏在しているなど高齢者が利用しやすい距離にあるとは言いきれない。[7] 美容室と行政が連携し、美容室を高齢者が利用しやすい場所へ整備したり、「移送サービス」のシステムを導入するなどの物理的環境を整えることができれば、今より更に、馴染みの美容室へ高齢者が通い続けられるようになると考えられる。

②　美容設備がバリアフリーになっている。

本研究では、美容室の施術でかかる身体的負担の一つ目に、シャンプー施術時の姿勢が挙げられた。一般的な美容室の仰向け姿勢の施術では、頸

部への負荷から、施術後などに、めまいや痺れが表れるケースがある。[8] 近年では、水平近くまで倒せるシャンプー椅子が普及して来たが、今後も一層の普及が望まれる。

身体的負担の二つ目として、店内での移動が挙げられた。厚生労働省（2006）[3] の報告によると、高齢者や車椅子の方に配慮した設備について、「あり」とした美容室は全体の36%であった。身体が不自由な高齢者であっても美容室を利用しやすくなるように、店内にバリアフリーの環境を整えていく必要があると言える。

３） 高齢者に対応した美容サービス

① 高齢者が求めるヘアスタイルを提供している。

本研究では、高齢者はヘアスタイルを大きく変化させたくない、という傾向があった。美容師と高齢者の信頼関係を築きながら、頭頂部のボリュームの減少などの悩みをカバーし、スタイリングしやすいヘアスタイルを提案していくことが大切であると考えられる。

またパーマでは施術時間の短縮の研究、カラーでは肌や髪に負担が少ないとされる「ヘナ」「ヘアマニキュア」「香草カラー」や、少し伸びて来ても自然に見える「グレースカラー」などの染め方について情報提供することで、高齢者の潜在的美容ニーズに合ったサービスを提供することができると考えられる。

② マッサージとシャンプーの心地良さを提供している。

本研究から、高齢者はマッサージが上手でシャンプーを丁寧に心ゆくまでしてくれる美容師を望む傾向があると分かった。また高齢者には、体調の悪い時や身体が痛い時に、身体的負担を軽くするために美容室でシャンプーをされる方がいた。高齢者にとってマッサージとシャンプーは、身体的、心理的支援という役割を持っていると考えることができる。

③ 高齢者に対応したトータル美容の知識と技術を提供している。

本研究では、高齢者は加齢による変化に対応するための必要な美容の知識を十分に得られずにいるために、悩みを持っていることが多いということが分かった。また多くの高齢者は、おしゃれの中で「髪型」を大切と考えているが、髪型だけでなくトータル的な外観の美しさを求めていた。よって、美容師によるトータル美容の知識と技術の提供は、高齢者潜在的な美容ニーズであり、これらの提供が重要であるということができる。

５．まとめ

本研究の結果から、高齢社会における美容室のあり方として、美容室に整えるべき環境を明らかにすることができた。これらを整備することは、高齢者の社会参加の充実に寄与するものと考えられる。しかし本研究の限界として、これらの環境をどのように整備するかについては、ほとんど明らかにできていない。今後の展開として、この結果を美容界へ提案し、高齢者が社会参加しやすい環境をどのように整備するかについて、美容室の検証をしつつ明らかにしていく必要があると言える。

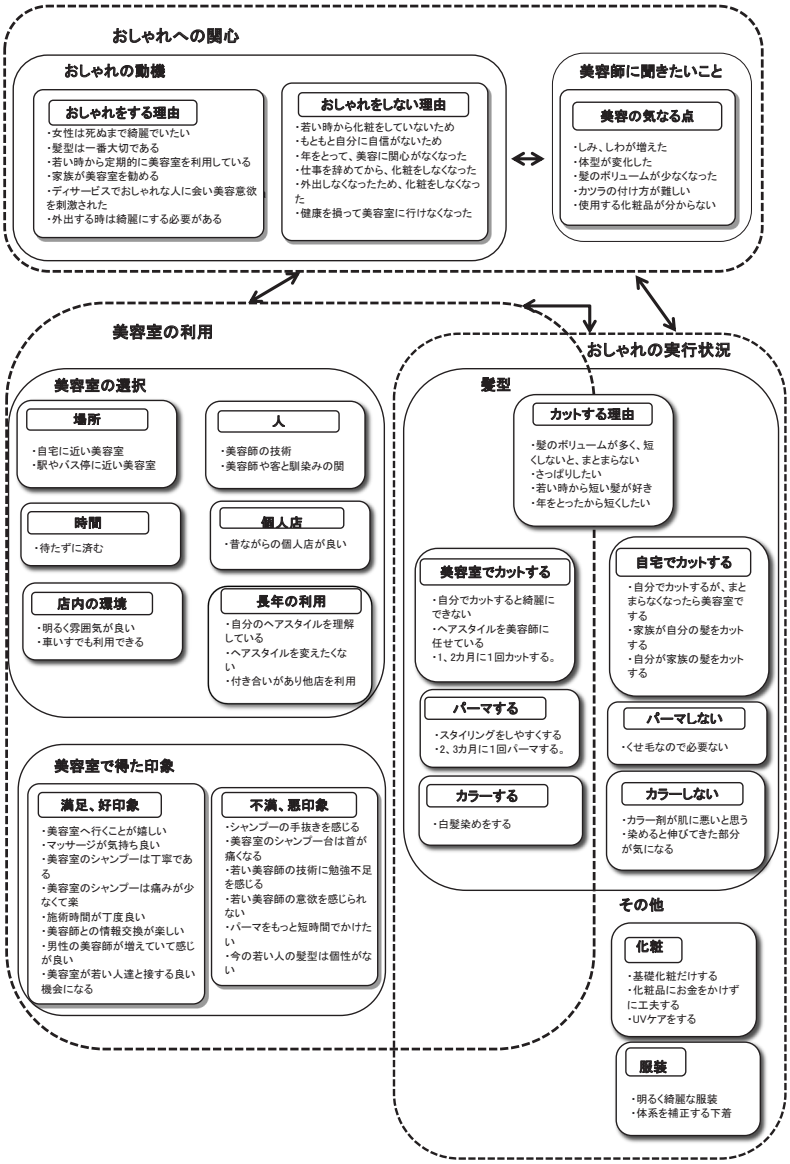
文献

１）高齢者介護研究会（2003）「2015年の高齢者介護－高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて」（http://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/kentou/15kourei/3.html),2010.8.26取得

２）内閣府（2006）「高齢者の日常生活に関する意識調査」（http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h21/sougou/gaiyo/pdf/kekka.pdf),2010.8.26取得

３）厚生労働省（2006）「平成17年生活衛生関係営業実態調査・美容業」（http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/seikatsu-eisei22/14-02.html),2010.8.26取得

４）井坪歩（2009）「高齢者の美容―美容が社会参加に与える影響について」『日本美容福祉

学会』pp.100-102
5）川喜田二郎（1967）『発想法』中公新書
6）井出添敬子（2009）「美容福祉の現場から見えてきた『福祉美容の展望・鳥取型』」『日本美容福祉学会』9,pp.63-64
7）八王子市ホームページ（http://www.city.hachioji.tokyo.jp/seisaku/joho/press/015130.html),2010.8.26取得
8）植田 明彦・寺崎 修司・永沼 雅基・ほか（2004）「自宅で発症した美容院卒中症候群の1例」『脳卒中』26（3),pp.461-464、2004
9）伊藤雅章（2007）「老化と毛髪変化」『日本臨床皮膚科医科雑誌』24（3),pp.221-228
10）山本將、久保村千明（2005）「美容室の利用調査と利用者及び潜在利用者の嗜好について」『山野美容芸術短期大学紀要』13,pp.67-65

結果（図１）高齢者の美容室に対する意識構造